

2021年2月2日
仙台国際空港株式会社

仙台空港に「復興空港ピアノ」を設置します ～宮城県七ヶ浜町で被災し甦った奇跡のピアノが仙台空港へ～



被災当時のピアノ(2011年4月)
Photo by Metis

仙台国際空港株式会社（所在地：宮城県名取市、代表取締役社長：鳥羽明門）は、仙台空港「震災10年メモリアルプロジェクト」の一環として、仙台空港ターミナルビル1階に2月19日(金)より期間限定で「復興空港ピアノ」を設置します。仙台空港にストリートピアノが設置されるのは初めてのことです。

「復興空港ピアノ」として設置するのは、宮城県七ヶ浜町で被災し修復されたグランドピアノです。津波をかぶり傷だらけのままがれきの中に置かれていたピアノは、復興支援で訪れていたシンガーソングライターの目に留まったことがきっかけで修復作業につながり、約半年かけて演奏できる状態に甦りました。被災当時の傷がそのままに残っており、当時の状況を伝えます。この奇跡のピアノを所有者より特別にお借りし、期間限定での設置が実現することとなりました。

期間中は、どなたでも自由に見学・演奏していただけます。あらためて震災を考えるきっかけとして、この機会にぜひ復興空港ピアノの音色に触れてみてはいかがでしょうか。

【仙台空港 復興空港ピアノ 概要】

<設置期間> 2021年2月19日（金）～3月12日（金）

<設置場所> ターミナルビル1階 センタープラザ

<利用時間> 6時30分～21時

<利用方法> 時間内であればどなたでも見学・演奏可能です

※演奏上のルールをお守りいただき、新型コロナウイルス感染拡大防止へのご協力をお願いいたします。



■ピアノについて

YAMAHA・1980年製。所有者は塩釜市在住のピアノ講師・櫻井由美さん。当時、宮城県七ヶ浜町にあった実家の離れの2階に置かれていた。津波被災後、シンガーソングライター・Metis氏に見いだされた後、修復作業を経て、2012年より七ヶ浜町生涯学習センターに設置・保管されてきた。傷だらけの見た目から歌手・故 西城秀樹さんの名曲「傷だらけのローラ」にちなみ「ローラ」という愛称で呼ばれている。

■ピアノ所有者・櫻井由美さんのコメント

震災後、多くの方々のご縁により復活したピアノ「ローラ」。今回「復興空港ピアノ」として使っていただけることは、私とローラの夢の1つでもありました。1人でも多くの方に実際のローラの姿を見て、復活の音色を聴いて頂きたいのです。七ヶ浜町の『奏でる震災遺構』として、ローラの音色は聴く人・弾く人それぞれの心にそっと染み込んでくれると信じています。

お問い合わせ

仙台国際空港株式会社 管理部 コーポレートグループ 広報
TEL：022-382-0803（広報直通）